

2026 年 10 月 15 日
株式会社みずほフィナンシャルグループ

非エンジニア社員を「AI アプリケーション開発人材」へ。リスキリング 期間を 6 分の 1 に短縮

ー AI コーディング支援ツールを活用した「みずほ AI Bootcamp」を本格始動し、内製開発力を強化 ー

株式会社みずほフィナンシャルグループ（執行役社長：木原 正裕）は、AI コーディング支援ツール（※1）を活用し、金融業務の知識を有する非エンジニア社員を AI アプリケーションの開発を担う人材へと育成するリスキリングプログラム「みずほ AI Bootcamp」（以下「本プログラム」）の本格運用を開始します。

本プログラムは、基礎学習から実案件の開発までを一体化し、非エンジニア社員を AI アプリケーション開発人材へ育成する期間を、一般的な 1 年半程度から 3 カ月に短縮した先進的な取り組みです。

2026 年 6 月から 8 月まで、本格運用に先駆けて実施したプログラムには、プログラミング未経験者 4 名を含む 5 名が参加。集中学習後に実施した知識テストでは、参加者 5 名の平均正答率が 92% となり、全員が所定の合格ラインに到達しました。

2026 年 9 月からは 5 名全員がエンジニア職へ転換し、金融業務の知識を生かした視点を AI アプリケーションの設計や仕様検討に反映するなど、実務においてそれぞれの強みを発揮し始めています。

こうした成果を踏まえ、本プログラムを一過性の研修にとどめず、AI を活用した内製開発（※2）を担う人材を継続的に育成する仕組みとして、今後も展開していくことを決定しました。

■AI 時代の新たなリスキリング

従来、非エンジニア社員が開発人材として活躍するためには、プログラミングやシステム開発の基礎を学び、演習や実務経験を重ねながら、段階的に専門性を高めていく必要がありました。一方、近年は AI コーディング支援ツールの進化により、AI を活用しながら学習と開発実務を一体的に進めることが可能となっています。

本プログラムでは、AI コーディング支援ツールを活用した開発手法を 1 カ月間集中的に学んだ後、2 カ月間にわたる実案件での OJT を通じて実践的なスキルを身につけます。参加者は、これまで培ってきた金融業務の知識を生かせる案件に参画し、単なるコードの記述にとどまらず、要件の理解、AI を活用した実装、成果物の検証・改善など、開発における一連の業務に取り組みます。

こうした学習と実践を一体化したプログラムにより、従来は時間をかけて段階的に進めていた育成を大幅に効率化し、3 カ月で AI アプリケーション開発に必要なスキルを身につけることが可能となりました。

【「みずほ AI Bootcamp」の特徴】

	従来のエンジニア育成	AI Bootcamp
育成対象	・ 金融業務知見の有無を問わない	・ 金融業務知見を持つ既存社員が対象
開発手法の前提	・ 人がコードを直接記述	・ 自然言語の指示をもとにAIが記述
育成初期における習得スキル	・ コードを一から書くためのプログラミング知識・スキル	・ 開発に必要な最低限の知識・スキル ・ AIに効率的・正確にコードを書かせるスキル
育成成果	・ 金融業務の知見を持つ非エンジニアの社員を、AIを活用して実装を担うエンジニア職へ転換 ・ 1カ月の集中学習と2カ月の実案件OJTの計3カ月で、参加者が開発実務へ移行	
組織への波及	・ ビジネスとテクノロジーをつなぐ社員のエンジニアを継続的に輩出 ・ 内製開発を通じて、AI開発の知識・ノウハウを組織に蓄積	
めざす効果	・ 開発の生産性・品質を高め、AIによる、〈みずほ〉の顧客体験・業務変革を加速	

■実施の背景と今後の展望

金融庁が2026年3月3日に公表した「AI ディスカッションペーパー」(※3)では、金融機関等におけるAI活用に関する論点として、AIに関する専門人材の確保・育成、社内教育、AIソリューションの選定・運用・管理を担う人材の確保、現場とIT部門の橋渡しを担う人材の育成などが整理されています。また、AIの開発・運用を外部事業者依存する場合は、ノウハウや知的財産が組織内に蓄積されにくく、内部人材の育成が進まない可能性があることなども、論点の一つとして示されています。

本プログラムでは、金融業務の知識を有する非エンジニア社員を、業務課題を解決するAI活用ソリューションの設計・実装から検証・改善までを担う「AI アプリケーション開発人材」へと育成するとともに、開発実務を通じて得られた知識やノウハウを社内に蓄積し、内製開発力の強化につなげています。

2026年11月から実施予定の次回プログラムでは、参加者数を初回の5名から20名程度に拡大し、以降も対象となる社員や実施領域を段階的に広げながら、〈みずほ〉の全社プログラムとして展開していきます。まずは100人規模のAIアプリケー

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

ション開発人材を育成し、内製開発力の強化につなげます。将来的には、内製開発ラボでの AI アプリケーション開発や、各部門で自部門の業務に即した AI エージェントの企画・開発、AI を活用した業務変革など、幅広い領域で活躍する人材の育成をめざします。

〈みずほ〉は、ビジネスとテクノロジーの双方を理解する人材を起点に、AI を活用した業務変革をグループ各社・各領域で加速させ、次世代の金融サービスを創出していきます。

※1：AI コーディング支援ツールとは、自然言語による指示に基づき、コードの生成・修正・機能追加などを支援する、AI を搭載した開発ツールです。本プログラムでは、Codex や Claude Code などのツールを活用し、AI エージェントの試作およびアプリケーションの実装・検証に取り組みます。生成されたコードは、参加者が業務要件、品質、セキュリティなどを確認したうえで利用します。

※2：〈みずほ〉の内製開発について

〈みずほ〉は、全社の内製開発を支える専門部隊「内製開発ラボ」を設置し、AI アプリケーションの開発・運用を支える共通基盤「みずほ Wiz Base」を構築しています。「みずほ Wiz Base」を活用し、既製の汎用サービスだけでは対応しにくい領域において、現場の声や業務上のニーズを反映した AI アプリケーションを開発・提供しています。

※3：金融庁「AI ディスカッションペーパー（第 1.1 版）—金融機関等における AI の活用実態と健全な利活用の促進に向けた初期的な論点整理—」（2026 年 3 月 3 日公表）

<https://www.fsa.go.jp/news/r7/sonota/20260303/aidp.html>

以 上